

有機農業へのこだわり

こだわりの百姓 森井克幸

父親に「こんな経営のやり方なんかやっ
ていて、どうするんだ」と言っ
て、内緒でやっていた帳簿と決算書を見せると、「明日からは全部おまえがやれ」の一言を言い残し、その後の経営も作業体系もすべて私がやる羽目になってしまいました。父親56歳、私が28歳の時でした。

当時、転作奨励金を含めても1,500万円にも満たない収入で借金が5,000万円位もあり、いったいどうやろうかと考えたあげくそれまで5割位を占めていた転作を水管理のやりづらい所を除いて、9割を水田に変えてしまいました。同時に転作も麦から野菜に切り替え、所得の向上に努めました。これにより収入は2,000万円近くになり、借金は約10年で完済することができました。

アメリカとニュージーランドで研修をする機会があり、その時の、農業を使わずに作物を育てるという体験がその後の経営に大きな影響を与えました。当時としては無謀とも人に言われながらの挑戦は、決して楽なものではありませんでしたが、これによって、消費者との距離が縮まり、それまでは農協にしか目が向いていなかったものが、買っていただく方に喜ばれる幸せを知ることができました。

ただ一般的な有機栽培農家とは違い、私は農協というものを敵と見なすのではなく一般栽培であっても消費者の方へ正しい情報を伝えるべく努力をしてきました。色々な作物部会の役員や部会長を引き受けて、農家側の意識改革や、消費先へ出向きその作物の情報を伝えてきました。今では当たり前前のトレサビリティーが言われ出す前にその取組みを始めていましたので、私たちの地域では何の抵抗感もなく受け入れることができました。作物の種類に関しても作ってから売るのではなく、消費者の方がこんな野菜が欲しいと言われてから作るので、売るときの苦労はあまりありません。ただ最低必要量を作るのは作柄

によって変動が伴いますので、若干多めに作りますから、その売り込みに時々苦労することもあります。今年の作付け品種はお米、玉葱、スイートコーン、南瓜、人参、ジャガイモ、アスパラ、大豆、小豆、ホーレン草などです。

ちなみに、お客さんへ作物をお届けするときにはA4用紙1枚の「百姓の独り言」に日々の農作業の様子や作物の生育状況報告を添付して、皆さんからとても喜ばれています。また、ライブカメラを公開していますので、私の農作物の様子や農作業を見ることができ
ますが、これもある意味、生でトレサビリティーをインターネットで確認できるのです。ちょっと辛口な独り言

政治はいったい何を考えているのか、政治家の御都合論理ばかりだし、官僚はと言えば自分たちの天下りのために次々と法律を変えていかにも自分たちは忙しいと言わんばかり。そしてそのつけは、一般の国民が被る……。農業に関しては昭和45年以来水田の転作制度がコロコロ変わり、近年の品目横断的経営安定対策・農家戸別所得補償制度に至っては、一般国民に全く理解されない方法が実行されると言った具合に、一時の受けねらいに終始する始末。

私個人の意見としては、ヨーロッパのような、景観を守るためのものや、自給率100%を維持するための施策であっても良いのではないのでしょうか。そしてそれは10年・20年単位での考え方で踏襲してもらいたいものです。…

結局、農家は自分の身を守るのは自分自身でしかないのですから、広く国民から支持されるような農業をやって行かなくてはならないのです。これを読んで頂いた農家の皆さん共に頑張りましょう。

(ホームページ<http://www.kodawari-farm.jp/>)

(もりい かつゆき)